

新年の所感

国立病院機構本部
医療部 医療課長
吉住 奈緒子

私は現在、4歳6ヶ月の娘と2歳9ヶ月の息子を育てながら働いています。2人の子供を年子で出産し、産休・育休を2人分続けて取らせていただいたため職場から離れていた時間が長くなってしまい、久しぶりの職場復帰がこの国立病院機構でした。職場復帰から1年半が経ち、復帰当初は久しぶりの職場で仕事の感覚を取り戻すことに四苦八苦しましたが、今はお陰様で仕事も子育てもとても楽しくさせていただいています。「忙しい」「大変だ」ばかりの毎日ですが、色々ありつつも心の深いところではいつも「楽しい」と思いながら日々過ごすことができているのも、周りの皆様のお陰と心から感謝しています。

よく成功本などで「ありがとう」と感謝することの効用が書いてありますが、子育てでも子供たちにしっかり教えたいくらいと思っているのが挨拶や感謝です。更に言えば、人に迷惑をかけないこと、人に好感を与えること、人を尊敬すること、この3点が子供に教えたいく人間関係の基本だと思っていますが、これらの根幹を成すものが挨拶と感謝だと思っています。

甘えん坊で年上の女人には誰彼かまわず甘える息子に対し、娘の方はどんどん口達者に育っており、反抗期ということもあって何かと文句を言ってきます。先日は、私がすることに対してあまりにも文句を言うので、「嫌な事や文句を言いたいことがあるも、まず『ありがとう』と感謝して、それから意見を言おうね。相手の人は、いいことをしてあげようと思ってやっていたかもしれないでしょう。それ

をまず否定してしまうと、相手も嫌な気持ちになってしまって貴方の言うことを聞いてくれないよ」と教えてみました。何回か言っていたら多少なりとも分かってくれたようで、最近は「ありがとう、でもこれは美味しいから食べられないのよ」などととりあえず最初に「ありがとう」をつけ、私に向かって「ドヤ顔」をするようになりました。

上記のようなことを娘には教えつつ、私自身が子供たちに対して高圧的になってしまっていることもよくあり、特に平日朝のバタバタしている時はつい「早く○○しなさい！」などと頭ごなしに怒ってしまうので、娘からは「ママは最近文句言い過ぎ！ママに文句言わなくとも私はちゃんと分かっているんだから！」と新年早々お説教されてしまいました。まだまだ未熟者の私ですが、子供たちから逆に教えられたり気づかされたり、そして子供たちと一緒に成長していくたりするのも、これまた感謝すべき楽しい経験です。感謝すること、これは対象を認めて受け入れた上で成り立っていることだと思いますが、この「受け入れる」力は成長のためにもとても重要だと思っています。

国立病院機構が独法となって丁度10年が経とうとしています。ここまでくるには、関わってこられた皆様の多大なご努力があったことと拝察いたします。そして、4月からの来年度にはブロック事務所の廃止と病院グループ制への移行、再来年度には非公務員化という新しいステージが始まります。メリットもデメリットもあるかと思いますが、これも受け入れなくてはならないのでしょうかし、国立病院機構はこれを機に更に飛躍していくだけの力がある組織だと考えています。よく理事長が「本部は病院に指示を出したり管理したりするためにあるんじゃない、病院をサポートするためにあるんだ」とおっしゃっています。来年度・再来年度に始まる新しい国立病院機構に向けて、私も本部の一員として、与えられた状況や周りの皆様に感謝をしつつ、各病院をしっかりとサポートしていくたいと思っています。国立病院機構の皆様、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。